

a 03-03T (北西から)



b 03-04T (南東から)



c 03-05T (南から)



d 03-06T (北から)



e 03-07T (南西から)



f 03-08T (南東から)



a 03-09T (南西から)



b 03-10T (南東から)



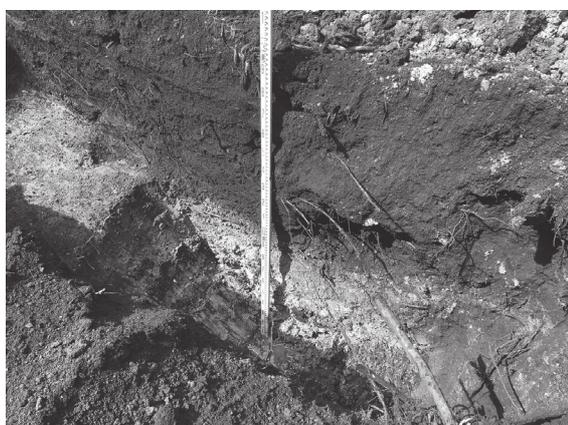
c 03-11T (北西から)



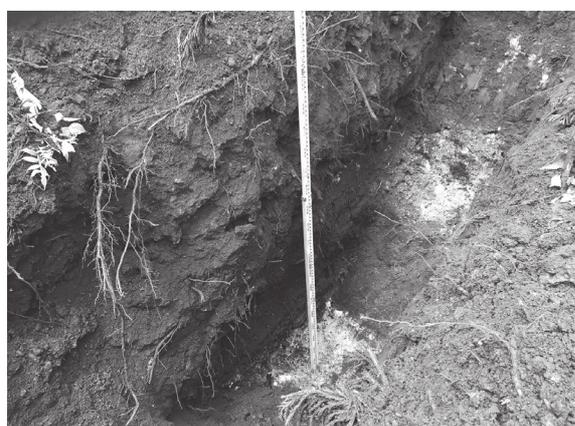
d 03-12T (南東から)



e 07-01T (南西から)



f 07-02T (南西から)



g 07-03T (南から)



h 07-04T (西から)

2 東広島・安芸バイパス建設事業に係る試掘調査（要試掘地点No.27, 28）

所在地：広島市安芸区上瀬野

調査目的：東広島・安芸バイパス建設事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：国土交通省中国地方整備局広島国道事務所

調査年月日：

(1) No.27 平成29年10月19日・20日

(2) No.28 平成29年10月20日・12月19日

調査対象面積：

(1) No.27 2,400㎡

(2) No.28 180㎡

調査結果：

(1) 要試掘地点No.27において、周知の埋蔵文化財包蔵地「野原山城跡」の範囲を確定した。

(2) 要試掘地点No.28では、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

(1) 要試掘地点No.27

調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「野原山城跡」及びその周辺である。現状で郭、堀切が観察でき、平成27年1月19日及び平成27年6月29日の現地踏査により郭の一部と堀切が



第10図 東広島・安芸バイパス建設事業計画に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）
（国土交通省国土地理院発行1：25,000地形図「安芸西条」を使用）

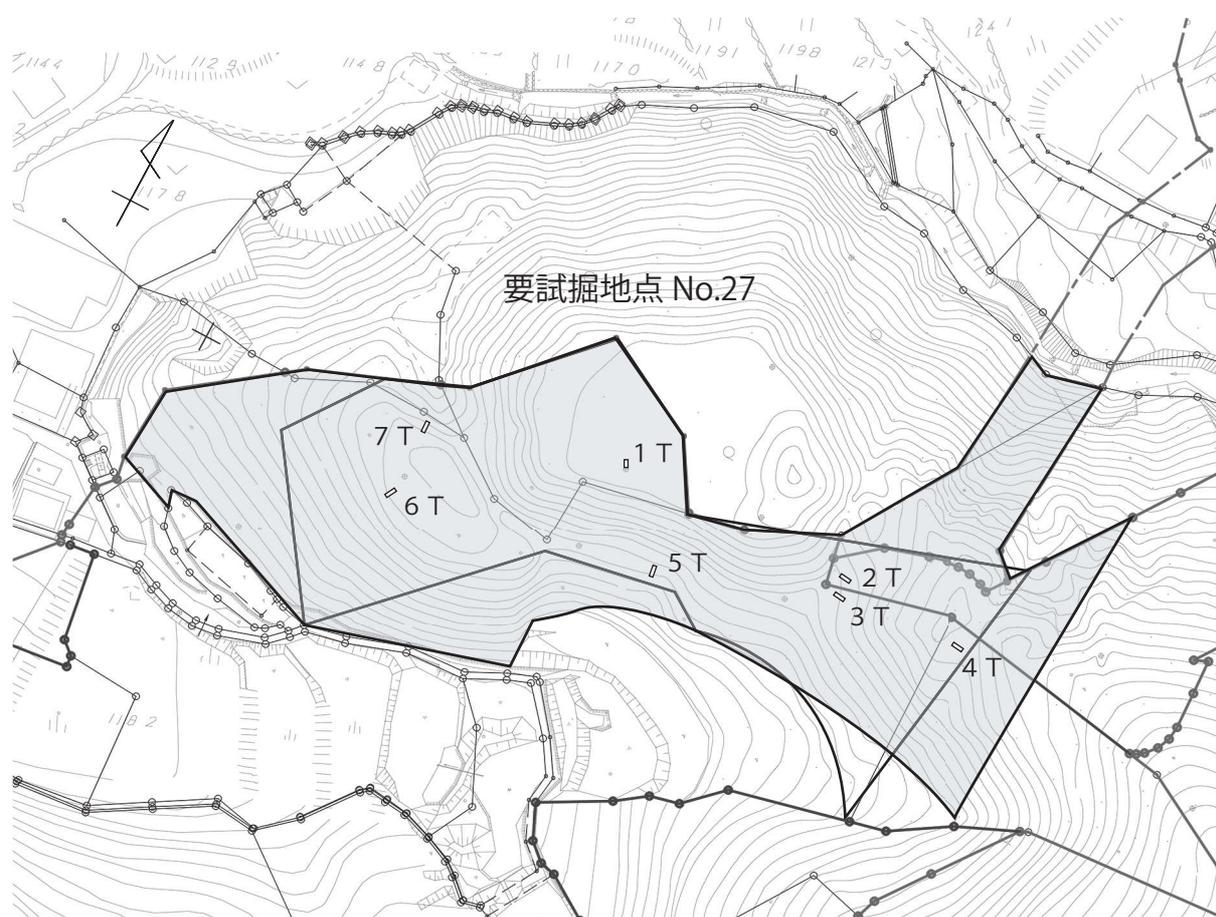
事業範囲に含まれていることを確認したことから、野原山城跡の範囲の確認及び堆積状況の確認を目的として試掘調査を実施した。

目視での確認によると、最高所に位置する約40×25mのややいびつな五角形の平坦面が主郭と考えられる。平坦に造成され、切岸も明瞭である。この平坦面の東には高さ約3mの高まりがあるが、頂部が平坦でないことから、櫓台としての使用は考えにくく、東側からの防御を意識した施設であると推測される。

最高所の郭の東側では東から続く尾根を断ち切るように、3条の堀切が確認できる。郭に最も近い堀切は、最高所の郭の高まりからの比高差が約6m、幅約7mと大規模なものである。中央の堀切はこの堀切から約5m東側に位置しており、幅約7mで、途中で西側に方向を変えて西側の堀切に接続する。東側の堀切は中央の堀切の約5m東方に位置し、幅約5mである。これらの堀切は、背後からの防御を強く意識した施設と考えられる。

最高所の郭の南側には、幅約1mの細長い平坦面がわずかに認められ、帯郭の存在が想定された。

最高所の郭の南西側には、堀切を挟んで30×10mの楕円形のやや平坦な面がある。主郭と考えられる郭と堀切を挟んで立地していることから、城跡の一部として機能した可能性が考えられた。



第11図 東広島・安芸バイパス建設事業計画地（要試掘地点No.27）試掘坑位置図（1：1,000）

また、地元では、かつて寺院があったと言われており、「寺分」という周辺の地名の由来となったとされている。

しかし、地表面観察では礎石・瓦・土器等、寺院の存在をうかがわせる物は確認できなかったほか、切岸も明瞭ではなく、周囲の傾斜が比較的緩やかであるなど、郭としても不自然な点もあることから、城跡の一部に当たるかどうか、不明である。

ア 最高所の郭

最高所の郭は、南西部が事業範囲にあたる。

表土の堆積状況を確認するため、1 Tを設定し、掘削を行った。腐植土（約10cm）の直下で黄褐色土の基盤層が露出したことから、基盤層が遺構面であると判断した。試掘坑内では遺構・遺物は確認されなかった。

イ 堀切

表土の堆積状況及び堀切がどこまで南側に延びるかを確認する目的で、2～4 Tを設定し、掘削を行った。

2 Tは最も西側の堀切の、南側斜面に設定し、掘り下げた。腐植土下に黄褐色土層が堆積し、その下で基盤層を確認した。堀切の東端と考えられる掘り方を確認した。遺物は出土しなかった。

3 Tは、2 Tの南約2 mに設定し、掘り下げた。2 Tと同様の堆積状況であり、堀切の東端と考えられる掘り方を確認した。3 Tの南側に傾斜変換点があり、以後、傾斜が急になることから、堀切はこの傾斜変換点まで続いていたと判断した。遺物は出土しなかった。

4 Tは、最も東側の堀切に設定し、掘り下げた。腐植土は20～50cmと深く、その下に明黄褐色土が堆積し、その下で花崗岩風化土の基盤を検出した。4 Tのすぐ南側には崩落によると考えられる傾斜変換点を確認できることから、本来はさらに南方に続いていた可能性もあるが、現状では堀切はこの傾斜変換点まで続いていると考えられる。遺物は出土しなかった。

ウ 帯郭状平坦面

最高所の郭の南側斜面下に帯郭状の細長い平坦面がわずかに観察できたことから、平坦面の存在を確認する目的で5 Tを設定し、掘り下げた。

約20cmの腐植土の下で、斜面上方側で約10cmの褐色土層が認められた。この土は切岸の土が一部雨水等で流れて堆積したものと推測される。平坦面の幅は約1 mである。遺物は出土しなかった。最高所の郭の切岸の角度が急峻であることから、切岸の角度を急に加工する過程で裾部が削り残されたことにより生じた平坦面であると考えられる。東側の堀切が途切れる付近から、南西側の堀切に接続するように続くものと考えられる。

エ 南西側の丘陵部

最高所の郭の南西側に堀切を挟んで約30m×約10mの楕円形の緩やかな高まりがある。地元の言い伝えでは寺があったとされているが、平坦ではなく、北西部がやや高い低丘陵状を

呈している。地表面観察では寺の存在を窺わせる礎石や瓦等は確認されなかった。また、切岸も明瞭ではなく、周囲の傾斜は比較的緩やかである。

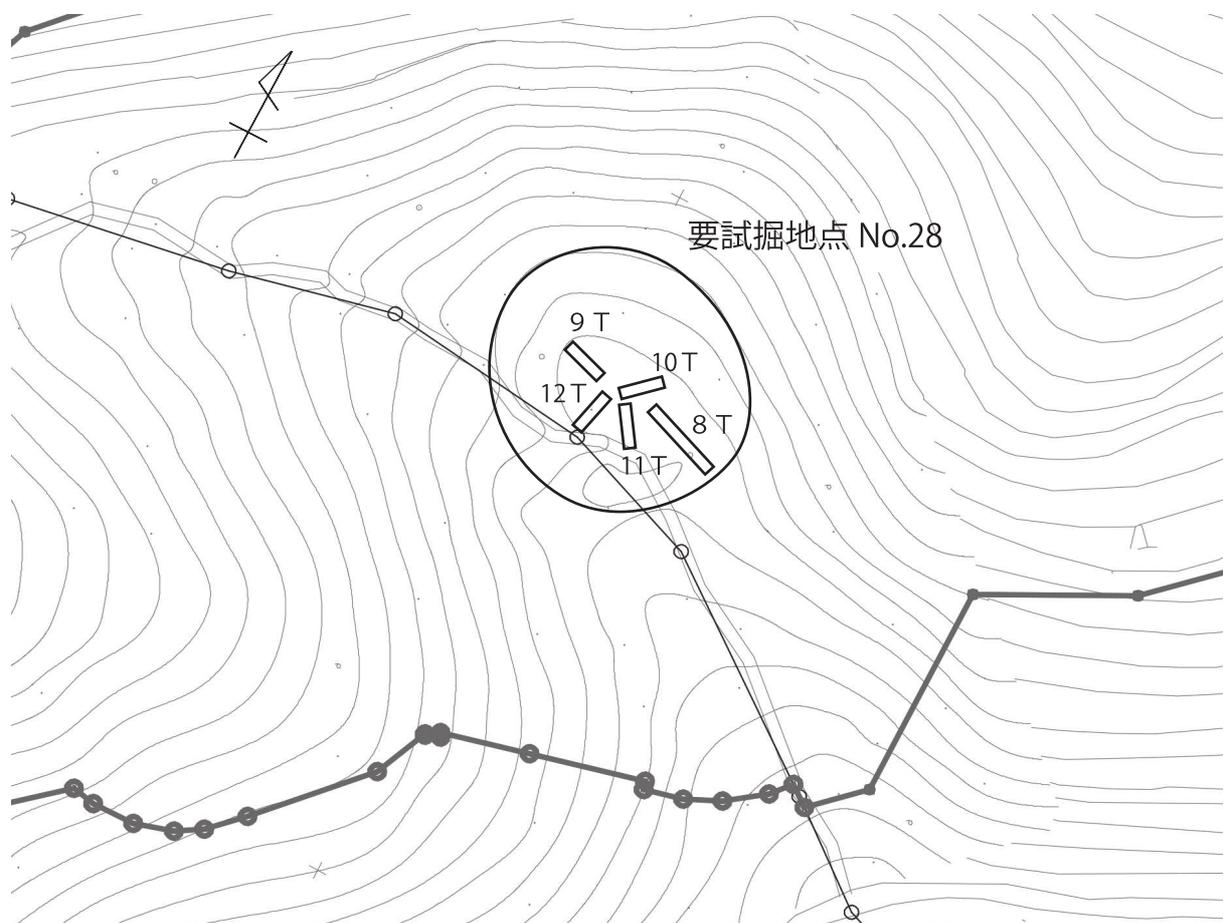
明確な切岸が存在するかどうかを確認するため、傾斜変換点近くに6 Tを設定し、掘下げた。約10cmの腐植土の下に明黄褐色土層（しまりなし）が堆積し、その下に花崗岩風化土の基盤を確認した。花崗岩風化土は北東から南西に向かって緩やかに下っており、明瞭な傾斜変換点は存在しなかった。遺物は出土しなかった。

北側の堀切と接する付近に7 Tを設定し、掘り下げた。花崗岩風化土の基盤層が大きく堀切に向けて下っており、傾斜変換点部分は人為的な地形改変を受けているが、緩傾斜地は平坦ではなく、平坦地として造成した状況はうかがえない。

以上のことから、本緩傾斜地は、最高所の郭南側の堀切を築く際に削り残された部分であり、郭ではないと判断した。遺物は出土しなかった。

以上の試掘調査結果から、要試掘範囲のうち、最高所の郭、堀切、帯郭状平坦面、及び南西側の堀切を埋蔵文化財の範囲と確認した。一方、郭の可能性が考えられた南西側の緩傾斜地は、郭ではないと判断し、埋蔵文化財包蔵地としなかった。

(2) 要試掘地点No.28



第12図 東広島・安芸バイパス建設事業計画地（要試掘地点No.28）試掘坑位置図（1：500）

尾根の先端部に位置し、南側では、尾根を掘り割って山道が通っており、この掘り割り部分が古墳の周溝のようにも見える。

試掘調査では、この掘り割り部分以北について、4本の試掘坑を設定して調査を行った。(以下、発掘順に「8T」～「11T」の番号を付す。)

8Tは、長さ2.4m、幅0.5m、深さ0.5mである。表土は10cm程度で、その下に淡褐色土(しまりあり)が堆積している。試掘坑南端付近で深さ約0.2mの落ち込みを確認したが、木根のため延長することができず、背面カットであるかどうか判断することはできなかった。遺物は出土しなかった。

9Tは、長さ2.4m、幅0.7m、深さ0.4mである。腐植土層の下に赤褐色土が約20cm堆積し、その下で花崗岩風化土の基盤を確認した。墳丘裾に相当するような傾斜変換は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

10Tは、長さ2.2m、幅0.6m、深さ0.4mである。0.4mで花崗岩風化土の基盤を確認したが、埋葬施設と考えられる落ち込みは確認できなかった。

11Tは、長さ3.2m、幅0.4m、深さ0.3mである。15～30cm程度の表土の下で基盤の花崗岩風化土を確認した。山道部分は掘削が行われているが、その他はほぼ平坦であり、背面カットの存在を積極的に認める状況ではない。

12Tは、長さ3.0m、幅0.4m、深さ0.2mである。表土約20cm下で基盤が露出し、埋葬施設と考えられる落ち込みは確認できなかった。遺物は出土しなかった。

以上のように、8Tにおいて背面カットの可能性のある落ち込みを確認したものの、他のトレンチに置いて墳丘・埋葬施設を確認できなかったこと、高まりの平面形が南東-北西方向に長い長円形になることから、古墳の存在を積極的に認める根拠が得られなかった。このことから、本地点には埋蔵文化財は存在しないと判断した。

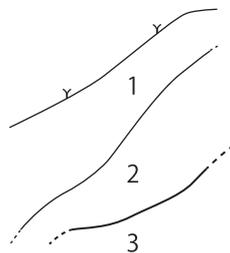
表8 東広島・安芸バイパス建設事業計画地(要試掘地点No.27) 試掘坑所見

トレンチ名	規模 (長さ×幅×最大深度, m)	調査所見
1 T	1.1 × 0.7 × 0.4	出土遺物なし
2 T	2.0 × 0.5 × 0.5	出土遺物なし
3 T	1.1 × 0.5 × 0.6	出土遺物なし
4 T	1.0 × 0.5 × 0.8	出土遺物なし
5 T	1.3 × 0.5 × 0.8	出土遺物なし
6 T	2.5 × 0.6 × 0.8	出土遺物なし
7 T	1.4 × 0.7 × 0.8	出土遺物なし

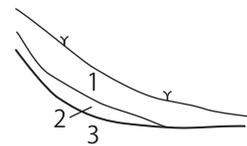
表9 東広島・安芸バイパス建設事業計画地（要試掘地点No.28）試掘坑所見

トレンチ名	規模 (長さ×幅×最大深度, m)	調査所見
8 T	2.4 × 0.5 × 0.6	出土遺物なし
9 T	2.4 × 0.7 × 0.4	出土遺物なし
10 T	2.2 × 0.6 × 0.4	出土遺物なし
11 T	3.2 × 0.4 × 0.3	出土遺物なし
12 T	3.0 × 0.4 × 0.2	出土遺物なし

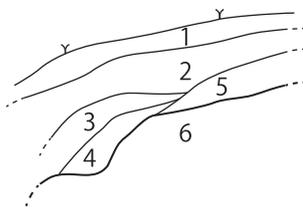
4 T



5 T



7 T



4 T北東壁

- 1 暗褐色土（表土）
- 2 明褐色土
- 3 明黄褐色土（基盤）

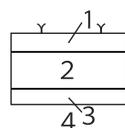
5 T南東壁

- 1 暗褐色土（表土）
- 2 褐色土
- 3 明褐色土（基盤）

7 T北東壁

- 1 腐植土
- 2 暗褐色土
- 3 褐色土
- 4 褐色土（6層の土をブロック状に含む）
- 5 淡褐色土
- 6 淡黄褐色土（基盤）

8 T



8 T東壁

- 1 腐植土
- 2 淡灰褐色土
- 3 褐色土（里道建築に伴う攪乱）
- 4 淡黄褐色土（基盤）

第13図 東広島・安芸バイパス建設事業計画地試掘坑4 T～8 T土層断面図（1：40）